



## ごあいさつ

初夏の候、会員の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

ここに、当金庫の第92期（令和元年度）の業務概況と決算状況をご報告申し上げるにあたり、平素より会員並びにお取引先の皆様方からご支援、ご協力を賜りまして、衷心より厚くお礼申しあげます。

さて、令和元年度のわが国経済は、米中貿易摩擦に端を発する世界経済の減速の長期化により、輸出関連産業が弱含むなかで、サービス業等内需関連産業を中心に所得、雇用環境の改善が進むなど、緩やかな回復基調にあったものの、年度後半には世界中で広まりを見せる新型コロナウイルスの影響により、サプライチェーンを通じた生産活動の減退や緊急事態宣言に伴う消費の低迷等先行きが不透明な状況となっております。

当金庫の営業区域内においても外出、移動制限を通じた消費活動の下押し、インバウンド需要の減少等観光業、飲食業を中心に影響が出始めており、全国平均と比較しても進行の速い人口減、高齢化と相まって地域経済にとって大きな不安材料となっております。

このような経済環境の中で、当金庫は地元の皆様方の温かいご支援の下、役職員が一致団結して、営業基盤強化と地域社会との共生に向けて努力して参りました結果、当期末の預金残高は1,493億円（前期比3,340百万円増加）となりました。一方貸出金は「地元とともに」のスローガンのもと収益力回復計画を策定し、地元の皆様方の資金ニーズに積極的に取り組んで参りました結果、当期末の貸出金残高は806億円（前期比9,160百万円増加）となり、預貸率は53.96%（前期48.92%）となりました。

また、収益面では経営の自己責任に則り、資産内容の健全化と体質の強化を図るため貸出金等の不良債権処理の実行、償却・引当を厳格に実施しました。貸出金利息減少分を積極的な余資運用によりカバーして、安定したコア業務純益の確保に努めた結果、当期純利益は523百万円を計上することとなりました。これも当金庫の経営理念である健全経営に徹した結果であるにご認識をいただき、よろしくご支援の程お願いいたします。

なお、当期末の自己資本比率は、大幅な貸出金の残高増加を主な要因として20.67%（前期21.20%）となりましたが、国内で業務を行う金融機関に義務付けられる国内基準4%及び平成30年度全国信用金庫平均12.26%を大幅に上回っており、経営の健全性確保に些かの狂いもありません。

迎える令和2年度は、資金ニーズに対して事業性評価を重視し、「金融仲介機能のベンチマーク」等の客観的な指標の活用を図り、新型コロナウイルスの影響を受ける地元事業者への積極的な金融支援を通じて、地域との連携を更に深めて参ります。また、デジタルライゼーションへの対応等、非金融面も含めたサービス提供力のさらなる強化を図ることによって、引き続き信用金庫の社会的使命、役割の遂行に努めて参る所存でございます。

当金庫は、これまで各関係機関との間で締結した業務連携にかかる各協定に基づく連携・協力を一層密にして、地域経済の活性化に向け取り組んで参ることとしておりますので、今後ともより一層のご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

令和2年6月

幡多信用金庫

理事長 松田 基